

区民等アンケート調査結果からの課題について

1 スポーツを「する」ことについて

①スポーツの実施状況

- 一般区民における区の週1日以上スポーツ実施率(57.6%)は、国(55.3%)や都(57.2%)と比べて高くなっている。実施内容を見ると、「ウォーキング・散歩」が70.0%と最も多く、次いで「体操(ラジオ体操、エクササイズ、ヨガ等)」が33.0%、「トレーニング」が20.9%となっている。主に「ひとりで」実施している人が57.2%と多い。
- よりスポーツ実施率の低い基本属性を確認するため、50.0%を下回った基本属性をみると、「男性の30～50歳代」、「女性の20～40歳代」、「子どもと同居している」となっている。
- 重点的に進めた方がよい施策に着目すると、一般区民全体では「初心者取り組みやすい」、「知り合いがいなくても取り組みやすい」、「高齢者取り組みやすい」が上位となっているのに対して、スポーツ実施率の低い層は「働いている人取り組みやすい」、「子育て中の人取り組みやすい」、「親子で取り組みやすい」が上位となっている。
- 一般区民をスポーツの実施状況を「非実施層」、「不定期実施層」、「定期実施層」の3つに分類し、性別や年代等の基本属性の特徴をみた。「非実施層」と「定期実施層」は60歳以上が多くなっていることから、高齢層はスポーツを実施している人と実施していない人の二極化傾向にあることがわかった。一方、「不定期実施層」は30～50歳代が多くなっており、働き盛り世代や子育て世代は不定期にスポーツを実施していることがわかった。

②スポーツを実施しない理由

- 一般区民をみると、「仕事が忙しくて時間がない」が23.7%と最も多く、次いで「年をとったから」が21.2%、「家事・育児・介護などが忙しくて時間がない」と「きっかけがつかめない」、「面倒だから」が15.3%となっている。

③スポーツを実施するようになるきっかけ

- 「家族や友人からすすめられれば」が44.6%と最も多く、次いで「医師からすすめられれば」が42.3%、「健康や美容に関する情報が得られれば」が24.5%となっている。

【課題】

- 働き盛り世代、子育て世代のスポーツ実施率を高める施策が求められる。
- スポーツを実施していない高齢世代に対する施策が求められる。
- スポーツを実施しない理由は「時間がない」「加齢」「きっかけがない」「面倒」。
- スポーツを実施するきっかけは「人からのすすめ」「健康等の情報」。

2 スポーツを「みる」ことについて

①スポーツの観戦状況

○過去1年間でトップスポーツ（オリンピック・パラリンピック、プロ野球、大相撲など）やアマチュアスポーツ（高校野球、子どもの部活動など）の大会・試合をどのように観戦したのかをみると、「テレビ（再放送を含む）」が71.1%と最も多く、次いで「有料の大会・試合を会場で直接」が22.2%、「観戦しなかった」が18.6%となっている。

○過去1年間に会場でスポーツを直接観戦した人の割合（27.3%）は、国（26.8%）と比べて高いが、都（41.1%）と比べて低くなっている。

3 スポーツを「ささえる」ことについて

①スポーツボランティアの活動状況

○これまでにあなたが関わったスポーツや運動を支える活動をみると、「大会やイベント会場での選手やチームの応援」が13.8%と最も多く、「自身やあなたの子どもが所属するクラブ・団体の運営や世話」が10.7%、「教室・大会・イベントの運営や世話」が8.6%となっている。

○過去1年間におけるスポーツボランティア実施率（20.2%）は、国（10.6%）や都（14.6%）と比べて高くなっている。

②スポーツボランティアを増やすための環境

○スポーツボランティアを増やすための環境をみると、「機会、きっかけがあれば」が41.9%と最も多く、次いで「一人でも参加しやすい活動であれば」が38.0%、「短時間でも行える活動であれば」が37.2%となっている。

③スポーツボランティアの実施希望

○スポーツボランティアの実施希望率は48.6%となっており、スポーツボランティア実施率（20.2%）よりも高くなっている。



【課題】

- スポーツの観戦を促す必要がある。
- スポーツボランティア実施希望率に応える施策が求められる。
- スポーツボランティアを増やすためのキーワードは「機会」「一人」「短時間」。

4 品川区のスポーツを取り巻く環境（施設・団体等）について

①スポーツ施設

○過去1年間でスポーツを行うために利用したことのある区内の公共施設をみると、「学校施設（校庭、体育館、温水プール等）」が12.1%と最も多く、次いで「健康センター（品川健康センター、荏原健康センター）」が11.8%、「屋内の総合スポーツ施設（総合体育館、戸越体育館、スクエア荏原）」が11.2%となっている。

②スポーツのできる団体

○スポーツのできる団体への加入意向をみると、「既に参加している」が18.8%、「参加したいと思う」が26.3%となっている。参加しているまたは参加したいと思うクラブや同好会は、「おおむね同じ地域の人に参加しているクラブや同好会」が55.3%と最も多くなっている。参加動機をみると、「健康・体力づくりのため」が61.7%と最も多く、次いで「継続してできるから」が40.2%、「親睦のため（仲間ができるから）」が34.8%となっている。

○参加したいと思わない理由をみると、「人づきあいが面倒だから」が34.1%と最も多く、次いで「スポーツ・運動は一人で楽しみたい」が24.8%、「時間がない」が19.5%となっている。

③地域スポーツクラブ※

○「地域スポーツクラブ」の認知率は9.5%となっている。

○「地域スポーツクラブ」で参加したい活動をみると、「運動やスポーツを個人で楽しめる定期的活動」が28.4%、「運動の苦手な人や初級者を対象とする活動」が20.0%、「子どもから大人まで地域の誰もが気軽に楽しめる活動」が18.6%となっている。

○「地域スポーツクラブ」に参加したいと思う人の割合をみると、「非実施層」が36.4%、「不定期実施層」が67.8%、「定期実施層」が59.7%となっており、「不定期実施層」が最も多くなっている。

※地域スポーツクラブとは、だれでも、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむことができ、地域の日常的なスポーツ活動の場として、子どもから大人まで、また、高齢の方や障害のある方を含めすべての人が参加でき、地域住民自らが主体となって運営する団体のことを指します。

④スポーツ指導者

- 区民のスポーツを推進するために必要な指導者の要素をみると、「スポーツの意義・価値・楽しみ方を伝えることができる人」が52.8%と最も多く、次いで「暴力やハラスメントを行使・容認せず、プレーヤーの権利や尊厳、人格を尊重できる人」が30.1%、「プレーヤーの人的成長にも配慮して指導することができる人」が29.6%となっている。
- 児童・生徒におけるスポーツを教えてくれる人に求めるものをみると、「上手くなるための技術を教えてくれる」が67.9%と最も多く、次いで「スポーツそのものの楽しさを教えてくれる」が56.9%、「良いところをほめてくれる」が51.8%となっている。

⑤スポーツに関する情報

- 品川区のスポーツに関する情報入手状況をみると、「特に入手していない」が41.8%と最も多く、次いで「広報しながわ」が40.5%、「町会回覧や掲示板」が13.0%となっている。
- 品川区のスポーツに関する情報を入手している人の割合をみると、「非実施層」が37.3%、「不定期実施層」が48.5%、「定期実施層」が59.7%となっており、スポーツを実施している人の方が、情報を入手している人の割合が高くなっている。



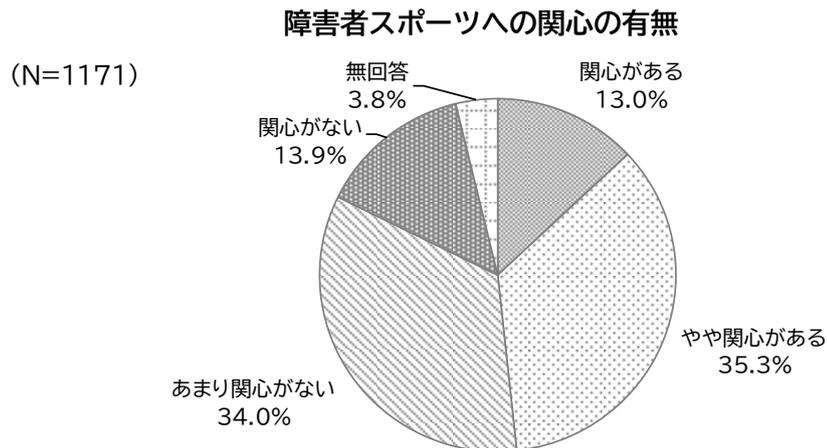
【課題】

- 区内のスポーツ関連施設をより多くの区民に利用してもらう施策が求められる。
- 地域の人々が加入しているスポーツクラブや同好会において、スポーツを実施している人、またはスポーツを実施したい人が多く、このような団体の支援が求められる。
- 「地域スポーツクラブ」の認知度を高める施策とともに、参加を希望する区民が加入しやすい環境づくりに資する施策が求められる。
- スポーツ指導者に最も必要な要素をみると、一般区民は「スポーツの意義・価値・楽しみ方を伝えることができる」、子どもは「上手くなるための技術を教えてくれる」となっている。
- 区民がスポーツに関する情報を入手しやすくする施策が求められる。

5 障害者スポーツについて

①障害者スポーツへの関心

○障害者スポーツへの関心をみると、「関心がある」（「関心がある」と「やや関心がある」の合計）の割合（48.3%）は、都（59.2%）と比べて低くなっている。



②障害者スポーツに関心がない理由

○障害者スポーツに関心がない理由をみると、「身近に障害者スポーツに関わっている人がいないから」が35.3%と最も多く、次いで「どんな競技があるか知らないから」が21.4%、「特に理由はない」が19.3%となっている。

③障害のある人がスポーツを実施しやすい環境づくりに必要な取り組み

○障害のある人がスポーツを実施しやすい環境づくりに必要な取り組みをみると、「障害者スポーツイベントや教室などの体験機会の充実」が43.5%と最も多く、次いで「施設のバリアフリー化」が33.3%、「障害者スポーツについての理解促進・PR」が32.6%となっている。



【課題】

- 障害者スポーツへの関心を高める施策が求められる。
- 障害者スポーツに関心がない理由は「身近に関係者がいない」「競技を知らない」。
- 障害のある人がスポーツを実施しやすい環境づくりに必要な取り組みは「体験機会」「バリアフリー化」「理解促進・PR」。

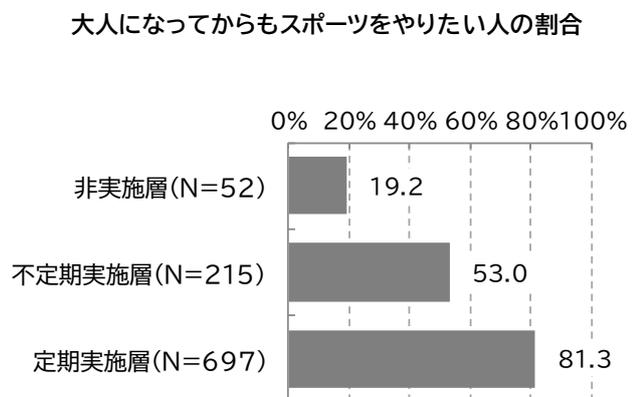
6 児童・生徒のスポーツ実施状況等について

①スポーツの実施状況

○スポーツの実施状況別に「非実施層」、「不定期実施層」、「定期実施層」の3つに分類し、性別や学年等の基本属性をみたところ、「非実施層」は8年生、「不定期実施層」は女子、「定期実施層」は男子が多くなっている。

○スポーツの実施状況別に責任感や社会性に対する自信の度合いをみると、「定期実施層」が最も高く、次いで「不定期実施層」、「非実施層」となっており、スポーツを実施している人の方が、責任感や社会性に対する自信の度合いが高い人の割合が高くなっている。

○スポーツの実施状況別に「大人になってもスポーツをしたいかどうか」をみると、「非実施層」が19.2%、「不定期実施層」が53.0%、「定期実施層」が81.3%となっており、子どもの頃からのスポーツ実施状況が、大人になってからのスポーツ実施意向に関連していると考えられる。



②スポーツをするのがきれいな理由

○スポーツをするのがきれいな理由をみると、全体をみると、「得意ではないから」が78.8%と最も多く、次いで「疲れるから」が62.0%、「楽しくないから」が24.0%となっている。

③スポーツをしていない理由

○スポーツをしていない理由をみると、「スポーツや運動が好きではないから」が40.4%と最も多く、次いで「得意ではないから」が38.5%、「疲れるから」が34.6%となっている。



【課題】

- 将来スポーツを実施したいと思えるように、子どもの頃から継続的にスポーツに親しめる施策が求められる。
- 子どもにスポーツの実施を促すには「不得意でも楽しめる」「疲れても楽しめる」機会提供が求められる。